

所属・氏名（看護学部 看護学科 氏名：二井矢清香 ）

著書、学術論文等の名称		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1	(著書) ナーシンググラフィカ 成人看護学概論	共	2026 年 1 月	メディカ出版 第 5 版 5 刷	2004 年に出版された教科書で、現在も増版されている。第 6 章:学習の特徴と看護を執筆した。 (総ページ数:321 頁) (担当ページ:pp127-150)
2	(著書) ナーシンググラフィカ セルフマネジメント	共	2025 年 1 月	メディカ出版 第 4 版 4 刷	2005 年に出版された教科書で、現在も増版されている。第 3 章:成人教育学について執筆した。 (総ページ数:269 頁) (担当ページ:pp43-48)
3	(著書) 経験型実習教育	共	2015 年 12 月	医学書院 第 1 版 1 刷	経験型実習教育は 1996 年に安酸文子教授が提唱した実習教育である。二井矢は、教師の実践的力量について教育効果をまとめた。 (総ページ数:267 頁) (担当ページ:pp253-262)
4	(学術論文) 医療政策における「自立した 患者」が内包する課題	単	2011 年	日本看護科学会誌 31 巻 4 号	新自由主義の医療政策によって患者の自己責任を前提とする「自立した患者」が目指されている。医療格差による様々な問題を明らかにした。 (ページ数:55-63 頁) (著者:芥川清香)
5	(学術論文) 教科書からみた患者教育の 変遷の概観	単	2012 年	日本看護医療学会 雑誌 14 巻 1 号	日本の看護教科書で患者教育がどのように取り扱われ、いかなる方法論が説明されてきたのか複数の看護教科書を分析した。 (ページ数:10-18 頁) (著者:芥川清香)
6	(学術論文) 戦後の患者教育の教育理念 と実践の変遷	単	2014 年	日本看護研究学会 雑誌 37 巻 1 号	看護師の患者教育は、戦後から 1980 年代までに方法論的側面から学際的視野を広げ、独自の学問領域を喚起させてきたことを明らかにした。 (ページ数:75-82 頁) (著者:二井矢清香)
7	(学術論文) 看護基礎教育における患者 教育の成立過程－戦後から 1990 年代の教育の変容－	単	2014 年	日本看護学教育学 会誌 24 巻 1 号	患者教育は、戦後の看護基礎教育のカリキュラム改正によって歴史的に生み出され、1980 年代から問題解決学習が積極的に実践されてきた。 (ページ数:41-54 頁) (著者:二井矢清香)
8	(学術論文) 戦後日本 70 年の患者教育 の変遷からみた看護の軌跡	単	2016 年	日本看護科学会誌 36 巻 1 号	患者教育の変遷を、看護基礎教育と臨床現場の実践という 2 つの視座から検討し、戦後 70 年の看護の発展を明らかにした。 (ページ数:9-18 頁) (著者:二井矢清香)
9	(学術論文) 看護における患者の「自立」 がもつ意味に関する歴史的 変遷	単	2016 年	日本看護医療学会 雑誌 18 巻 2 号	患者の自立の意味は、1980 年代～2000 年代にかけて「自律」を包含するようになり、患者の状況によって多様な意味をもつようになった。 (ページ数:31-40 頁) (著者:二井矢清香)
10	(学術論文) 1980 年代からの看護におけ る患者教育の変遷－患者の 意思決定の尊重と学習援助 型の患者教育の視座から－	単	2017 年	日本看護研究学会 雑誌 40 巻 1 号	看護における患者教育は「教える」ことを基盤とする特徴がある。その一方で、科学的な方法論を根拠とした実践を発展させてきた歴史をもつことを明らかにした。 (ページ数:57-66 頁) (著者:二井矢清香)
11	(学術論文) 先輩－後輩関係から学ぶピ アラーニングの思考過程	共	2021 年	日本看護学教育学 会誌 31 巻 2 号	ヴィゴツキー理論を活用しながら、1 年生が援助的関係をどのように意識し行動していくのか、ピアラーニングの思考過程を明らかにした。 (ページ数:57-68 頁) (筆頭:二井矢清香)

令和 8 年 4 月 27 日 現在